

# 狩人タロの冒険



たかし・よいち  
少年少女長篇小説  
× 理論社 ×

ことに生きがいをおぼえる勇士だったことでしょう。

人間は、火をつくりだしました。石の矢ヅリやオノをつくりだしました。鹿やイノシシやウサギを追う狩りの生活をいとなみ、やがて畑を耕す生活もうみだしました。どのひとつをとってみても、こんにちの原子力や人工衛星などに、けっしておとらぬい発明であり発見でした。もしかすると、これらの素朴な発明や発見のおこなわれた時代には、人びとは、現代よりももっと、大きなおそれや疑問をいただき、深い知恵や勇気をそなえていたのかもしれませんが。

いまは、新しい科学時代だといわれています。この時代に生まれあわせた私たちは、やがて、もっと多くの謎をとき、もっと多くの発明や発見にめぐりあうことでしょう。こんな私たちにとって、新しい科学や技術についてのしっかりとした知識が、何よりのおさえとなることはいうまでもありません。しかし、同時に、私たちの祖先たちが示してきた深い知恵と勇気が、私たちを高めしつづけていることを、わすれてはならないと思います。

いまから二千五百年ほど昔、この日本列島にすんでいた私たちの祖先の生活を、私がお話するのは、そんな気持ちからです。私は、この気持ちを、よりいきいきとおつたえするために、「狩人タロ」という一人の少年を中心に、この物語をすすめることにしました。どうか、このタロくんと、なかよしになってください。





狩人タロの冒険

もくじ

はじめに……………1

第一章 狩り……………7

一撃のもとに 7

狩りと漁をもとめて 9

きらわれもの、ペケ 12

神木に宙づり 23

まじない師ノロ 39

矢は放たれた 51

よこどりされた獲物 58

狩りのうたげ 66

魂、悪魔にうばわれる 74

第二章 オオカミの森……………86

熊に襲われる 86

